

開会式開催県校長あいさつ

皆様、こんにちは。

私は、宮城県立聴覚支援学校長の鳩原潤と申します。本研究協議会開催県の聾学校長といたしまして、一言、あいさつ申し上げます。

本日、第4回東北教育オーディオロジー研究協議会が開催できますこと、大変ありがたく思っておりますと同時に、今年も、ここ仙台へ東北各地から皆様に多数お集まりいただきましたこと、とてもうれしく思います。

聴覚障害教育は、いつの時代にあっても、特別支援教育をリードしてきたことは、昨年、この研究協議会で日本教育オーディオロジー研究会会長の大沼直紀先生が、ご講演の中で明らかにされたことの一つです。「ことば」の獲得を目指した指導には、子供たちの可能性を決してあきらめないという特別支援教育の原点が見え、「特別支援教育の中で聴覚の領域がもっと自信を持ってよい」と大いなるエールをいただきました。ありがとうございました。

さて、私たち聴覚障害のある子供たちに関係する者の共通する願いは、言うまでもなく子供たちの社会自立であると思います。そのためには、子供たち一人一人が必要とするタイミングで適切な指導を受け、「ことば」を獲得し、日本語を確実に習得することができるような支援を得られる場を確保することが重要になると考えます。このことを、東北地区の各聾学校・聴覚支援学校の先生方や、関係する医療、大学等の地域の皆様など、それぞれの立場で考えていくことができれば、今年で4回目となる本研究協議会が、他の地区とはひと味違った特色をもつことにつながっていくのではないかと思います。

最後になりますが、聴覚に障害のあるすべての子供たちの可能性を広げていくためには、私たち聴覚障害に関係する者が、より幅広く、そして深い専門性を身に付けていくことが必要であろうと考えます。これまで本研究協議会では、毎年、大きな成果があり、所属や県の枠を超えて東北地区の皆様が一堂に会する意義は、とても大きいと感じています。本日、明日の研究協議会が、東北地区の聾学校・聴覚支援学校の幼児・児童・生徒をはじめ、聴覚に障害のある子供たちの明るい未来に向けて、ぜひ盛会となりますことを期待申し上げます、あいさつといたします。

2016年8月10日

宮城県立聴覚支援学校

校長 鳩原 潤